

令和6年度

学校評価
アンケート・自己評価
(生徒・保護者) (教職員)



上勝町立上勝中学校

考 察

教職員による自己評価と生徒・保護者による学校関係者評価は、概ね似た傾向にある。

『よくあてはまる』と『ややあてはまる』の合計が8割を越えていない項目は、以下の項目である。

- Q 1「生徒は目標をもって日々、学校生活を送ることができている。」生徒・保護者
- Q 2「生徒は早寝・早起き・朝ごはんを意識した生活を送ることができている。」生徒・保護者
- Q 7「生徒は自分で決めた時間は家庭学習に取り組んでいる。」生徒・保護者
- Q 8「生徒は授業において、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりすることができている。」
生徒・保護者
- Q 9「学校は、GIGAスクール構想を推進し、タブレット端末の活用を積極的に行っている。」生徒
- Q 10「地域にあるものを活用したり、地域の人と一緒に学んだり、地域の良さを活かした学習ができている。」生徒

『よくあてはまる』と『ややあてはまる』の合計が9割を越えている項目は、以下の項目である。

- Q 6「学校は、授業の最初に目標を示したり、教材を工夫したりして、わかりやすい授業づくりに努めている。」
- Q 12「学校は、道徳教育や人権教育、生徒の個性に合わせた指導を充実させている。」
- Q 13「学校の給食の時間は楽しく充実し、食への興味関心が高まっている。」
- Q 14「学校は、一人一人を大切にしたい学級づくりと支え合う集団づくりを行っている。」
- Q 15「学校は、心の痛みやつらさ、苦しみをわかり合える集団づくりを行っている。」保護者
- Q 16「学校は、それぞれが持ち味を発揮し成長する、高め合う集団づくりを行っている。」
- Q 17「学校行事は、充実して楽しい。」生徒
- Q 18「学校は、生徒の主體的な意見を取り入れて、学校行事等を行っている。」生徒
- Q 20「学校の部活動は、充実して楽しい。」生徒
- Q 21「学校を休んだ時、不安なくまた登校することができる。」保護者
- Q 22「学校は、いつでも相談しやすい雰囲気がある。」保護者
- Q 23「学校の先生は、生徒の人権や個性を大切にしている。」
- Q 24「学校の先生は、楽しく生き生きと働いていると感じる。」
- Q 25「学校は、施設・設備の整備に努め、安全で整った教育環境をつくっている。」

Q 10は、教職員は地域のよさを生かした学習や出前授業、GXスクールの取組が効果的であったことがわかる。いろいろな取組を行えたため、「学校行事は、充実して楽しい。」(Q 17)と感じてもらえたようである。

Q 12、Q 14、Q 15、Q 16からは、一人一人の生徒を尊重し、個性を生かした教育活動を行っていることが肯定的に捉えていただいていることがわかる。また、それが自他を認め合う集団づくり、仲間づくりにつながっていることもわかった。生徒・保護者共に「学校の先生は、生徒の人権や個性を大切にしている。」(Q 23)に肯定的に回答してくれているのは嬉しい限りである。

今後も、人権教育の充実を図ると共に地域と協働する行事等の中で生徒の自尊感情を高め、「自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度」の育成をめざして、人権教育を推進したい。

今年度の課題に対する成果と課題

1 生活リズムの整った環境づくり

Q 1、Q 2、Q 7は肯定的な回答が8割に満たなかった。生活リズムを整え、睡眠、食事、家庭学習の時間を確保することが大切である。今年度は、上勝町の保健師さんが中学生の鉄分不足についてアドバイスをしてくださった。給食試食会では保護者に対して、生活習慣病予防教室では中学生に対して呼びかけてくださった。今後も各機関と連携した取組を進めていくと共に、そのときどきに繰り広げられる教育活動の意義を確認し、「生徒は目標をもって日々、学校生活を送ることができている。」(Q 1)環境を作り出すことが課題である。

2 自分の考えを相手にわかりやすく伝える学習活動の充実

Q 8「生徒は授業において、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりすることができている。」は、教職員は肯定的な回答が8割を越えていたが、生徒は肯定的な回答が8割に満たなかった。11月に9割近くまで増えていたものの、その後、学校新聞作りや高校入試の面接練習などで、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりすることの難しさを経験したため、特に3年生ができていないと評価したようである。

今後はタブレット端末の活用(Q 9)も進めながら言語活動の充実を図り、引き続き、自分の考えを相手にわかりやすく伝える力を育みたい。学習指導は、一朝一夕で成果が上がるものではないが、生徒たちが「わかった」「できるようになった」といえる授業を実践できるように、少人数であることの利点を生かしたきめ細かい指導について、今後もさらに研究を進めていく必要があると感じた。

3 GIGAスクール構想の実現に向けた取組の推進

Q 9は、生徒の肯定的な回答は8割に達していないものの、昨年度(68%)よりもよくなっている。思考ツールとして用いたり、授業の振り返りをFormsでしたり、プレゼンテーション以外に活用する機会は増えてきたが、学習活動においてタブレットを文房具として使う段階までは至っていないため、引き続き来年度の課題としたい。

4 生徒主体の活動のさらなる推進

Q 18「学校は、生徒の主体的な意見を取り入れて、学校行事等を行っている。」は、生徒の95%、保護者の79%、教職員の83%が肯定的な回答であった。今年度は生徒の企画による修学旅行や、生徒の発案によるGXフェスティバルの取組等により、肯定的な回答は増えた。ただ、Q 10については、徳島県内の各地から出前授業等で来てくれたため、「地域にあるものを活用したり、地域の人と一緒に学んだり、地域の良さを活かした学習ができている」印象を与えづらかったようである。来年度も、特別活動や生徒会活動とも関連付けながら、生徒の活躍の場を増やし、地域とともにある学校づくりに努めていきたい。

5 相談しやすい雰囲気作り

Q 21「学校を休んだ時、不安なくまた登校することができる。」、Q 22「学校は、いつでも相談しやすい雰囲気がある。」を課題に感じている生徒が一定数いるが、肯定的な回答が8割を越え、昨年度よりはよくなっている。Q 23のように、学校が一人一人を大切にしていると感じてもらえているものの、生徒が悩みや困りごとを相談するには工夫が必要であると思われる。今後も、生徒が「安心して学校生活を送ることができる。」と感じることができるよう継続して努力していきたい。